

— M R I 検査をお受けになる患者さんへ —

Q1. MR I 検査とは？

- MR I は、X線などを使うことなく身体の状態を検査する方法です。検査では非常に強力な磁場と高周波の電波を使い、種々のMR I 画像を、いろいろな断面で撮影することができます。
- このため、検査室内に金属類など、磁場、電波の影響を受けるものは持ち込むことが出来ません。また心臓ペースメーカなど体内埋め込み医療器具のある方は、検査が出来ない場合があります。但し、条件付きMR I 対応ペースメーカに関しては対応可能となっております。検査を受ける際は通常よりも厳重な安全確認が必要となりますので、必ずペースメーカ手帳とカードをご準備のうえお問い合わせください。
- (別紙)チェックの項目を担当の職員と一緒に“必ずご確認ください”。事前のチェックを確実にして、有益な検査を、安全に行いましょう。



Q2. 実際の検査では？

- 検査の時間は、部位や種類にもよりますが、概ね20分から40分程度です。ほとんどの撮影においては検査着に着替え、ベッドに仰向けに寝ていただきます。(乳房など、これ以外の体位をとっていただく場合もあります。)
- そのうえでコイルと呼ばれる撮影用のアンテナを、部位に合わせ装着します。また撮影のため心電図や呼吸のセンサーなどを装着していただくこともあります。
- この状態で、短いトンネル状のMR I 装置に入っていただきます。人によっては狭く感じる場合も考えられます。狭いところが苦手な方は、あらかじめご確認ください。検査中は緊急コールブザーをお渡しします。ブザーを握るとすぐに担当者がかけつけますのでご安心ください。また、検査の内容によっては、10秒前後の息止めにて撮影をする場合もあります。ご協力をお願いします。
- 撮影が始まると“ガーガー、ビービー”と、とてもうるさい音がします。これは撮影用の電波による音ですからご安心ください。(驚いて動いたりしないようお願いします。) またこの音が撮影中の合図にもなります。撮影中は動かないようにご協力をお願いします。
- 乳幼児や、様々な理由で検査中じっとしてられない方は画像がブレてしまうため、検査を受けることができない場合があります。その際は担当医、付き添いの方と相談のうえ睡眠導入のお薬等を使用することもあります。乳幼児の場合は検査の時間に合わせて眠り易くなるような配慮をお願いします。

Q3. 造影剤などを使用する検査の場合は？

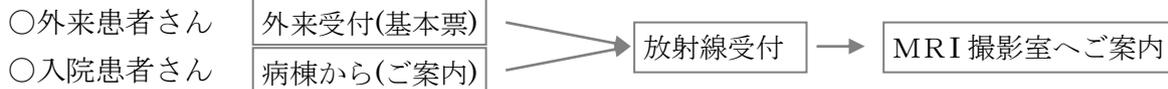
- 検査の目的によってはMR I 用の造影剤を使用することもあります。造影剤を使用する方は、あらかじめ、担当医から造影剤投与に関する説明があります。“アレルギー歴などのご確認をお願いします。” また“腎障害のある方は造影剤は使用できません。”
腹部の検査では、おなかの様子をみやすくするために検査用のお薬を飲んでいただくこともあります。



- 造影剤は、ほとんどの場合、検査の途中で投与されます。検査によっては検査前に点滴等で造影剤注入用の血管確保をさせていただく場合もあります。
- 造影剤注入の際は、針を刺した部分に少しでも痛みや違和感のある時、またその後も体調に変化を感じたらすぐに担当者に伝えてください。
すぐに対処をいたします。



Q4. 検査当日の流れ



—MRI 検査を受けるにあたっての注意事項—

MR I では強力な磁場と電波が使用され、磁場は常に発生しています。
金属類、電子・電気機器の室内への持ち込みには特に注意が必要です。
以下に具体的な内容をお示しします。MR I を予約される際は必ずチェックをお願いします。

1. 予約の際に下記のものがないかご確認ください。

●心臓ペースメーカ、植込み型徐細動器 (I C D)、人工内耳など

大きな傷害、装置の故障などの危険があります。

※MR I の検査は受けられません。 ※検査室内にも立ち入らないでください。

ただし、条件付きMR I 対応ペースメーカに関しては対応可能となっております。検査を受ける際は通常よりも厳重な安全確認が必要となりますので、必ずペースメーカ手帳とMR I 対応カードをご準備のうえ事前にお問い合わせください。



●血管・胆管内ステント・I V C フィルター等の脈管内の医療器具

留置後、一定期間経過していれば検査は可能とされています。

検査可能となる期間等については予約の際、医師、留置した医療機関等にご確認ください。

不明の場合は検査できないこともあります。

●脳動脈クリップ、人工骨頭・関節、プレートなどの体内埋め込み医療器具

最近のものは素材も含め多くが検査可能と言われますが、該当部位が写らない場合もあります。

古いものや材質がはっきりしないものではMR I 検査ができない場合もあります。

医師、該当医療機関にご相談ください。

●可動型の義眼、また眼窩内の異物・金属片・体内の異物・金属片(事故や戦争等による)

原則的に検査を受けることはできません医師とご相談ください。

●リブレ等の持続グルコース測定器・インスリンポンプ

装着したまま検査を受けることは出来ません。検査時には取り外す必要があります。事前に該当医療機関にお問い合わせください。

- 入れ墨・タトゥー → 発熱・やけど・変色の危険があります。
- 口腔内インプラント → 違和感・発熱の危険があります。
- 避妊リング（金属製） → 発熱の危険があります。
- 妊娠（特に4ヶ月未満） → 安全性は確認されていません。
- 閉所恐怖症の方 → 少し狭いトンネルの中に入ります。

確認後、
医師にご相談ください。

2. 検査当日のお願い

- 検査時は、ボタン・ファスナー・フックなど金属がついている場合やヒートテック・金属が織り込まれているお洋服の場合は検査着に着替えをしていただきます。
- アイシャドウ・マスカラ等 → （金属成分を含むものがあります。）
やけど等の危険がありますので取り除いていただきます。
- ジェルネイル等で金属がついているもの、または金属成分が含まれているものは、事前にとりはずしてきてください。
- その他、検査室に持ち込めないものや、はずしていただくもの
 - ・コンタクトレンズ（保存容器をお持ちください）
 - ・ヘアピン等の金属製の髪止め
 - ・眼鏡・補聴器・入れ歯（歯根側にマグネット使用のものは検査不可）
 - ・ネックレス・腕時計・ブレスレット・ピアス・指輪等の貴金属類
 - ・カイロ・エレキバン・ニトロダームテープ等（貼り面が金属色の物）
 - ・リブレ等のインスリンポンプ・持続グルコース測定器（事前に確認）
 - ・財布等の貴重品、および診察券・キャッシュカード等の磁気カード類
 - ・その他、ハサミ・ペン等の金属小物類
- その他、体内・体表面の異物・金属など不明な点は担当の医師、診療放射線技師にご相談ください。

